

# 第3章 製造業・建設業・商業

## 第1節 製造業

### 1 製造業の概要

平成19年工業統計調査結果（平成19年12月31日現在）によれば、宮古圏域内の従業者が4人以上の事業所は、63事業所で、前年に比べて8事業所減（宮古島市67→60、多良間村4→3）となり、従業者数は868人で、40人減（宮古島市868→830、多良間村40→38）となっている。製造品出荷額等は188億1126万円で5億3146万円の増加（宮古島市172億4927万円→177億2017万円、多良間村10億3053万円→10億9109万円）となっている。

図表3-1 宮古圏域の事業所数・従業員数・製造品出荷額（平成19年）

単位：人、万円

業種	区分	事業所数	構成比	従業員数	構成比	製造品出荷額	構成比
合計		63	100.0%	868	100.0%	1,855,931	100.0%
食料品製造業		25	39.7%	404	46.5%	1,028,612	55.4%
飲料・たばこ・飼料製造業		7	11.1%	172	19.8%	335,205	18.1%
繊維工業（衣服、その他の繊維製品を除く）		3	4.8%	37	4.3%	6,179	0.3%
衣服・その他の繊維製品製造業							
木材・木製品製造業（家具を除く）							
家具・装備品製造業						×	×
パルプ・紙・紙加工品製造業							
印刷・同関連産業		4	6.3%	21	2.4%	9,652	0.5%
化学工業		2	3.2%	22	2.5%	×	×
石油製品・石炭製品製造業		2	3.2%	12	1.4%	×	×
プラスチック製品製造業（別掲を除く）							
ゴム製品製造業							
なめし革・同製品・毛皮製造業							
窯業・土石製品製造業		11	17.5%	120	13.8%	293,357	15.8%
鉄鋼業							
非鉄金属製造業							
金属製品製造業		8	12.7%	74	8.5%	73,817	4.0%
一般機械器具製造業		1	1.6%	6	0.7%	×	×
電気機械器具製造業							
情報通信機械器具製造業							
電子部品・デバイス製造業							
輸送用機械器具製造業							
精密機械器具製造業							
その他の製造業 （再掲）						×	×
パynaップル缶詰製造業							
砂糖製造業		4	6.3%	157	18.1%	892,229	48.1%

（平成19年12月31日現在）

資料：統計課「平成19年沖縄県の工業」

図表3-2 市町村別事業所数・従業員数・現金給与額等産業別就業者数

	事業所数	従業者数	製造品出荷額等 （万円）	現金給与総額 （万円）	原材料使用額等 （万円）	粗付加価値額 （万円）
県計	1,335	25,227	55,985,038	6,666,409	36,410,538	15,562,070
宮古島市	60	830	1,772,017	219,016	964,820	683,151
多良間村	3	38	109,109	24,027	70,599	36,677

（平成19年12月31日現在）

資料：統計課「平成19年度沖縄県の工業」

## 2 地場産業

### (1) 宮古上布

#### ①沿革

1583年稲石刀自によって創製されたと言われている。1610年には人頭税下の貢納布となり薩摩への上納府となって1903年に人頭税が廃止されるまで蔵元貢布座の指揮監督による強制労働等圧政の下での生産が続いた。地租改正によって自由製造販売が許された宮古上布は大正12年頃には「製品としての宮古上布」の地位が確立され、17,000反前後が生産されていた。

#### ②製品の特性

苧麻手績糸を原料糸として、醗酵建てによる藍(琉球藍)で染色して織り上げる。一反を織り上げるのに約2ヶ月を要する。緋模様は細かな十字緋で絵柄を構成しており、他の沖縄の織物と異なっている。戦前から、越後、能登及び近江上布とともに、四大上布の一つとして知られ、特に「東の越後、西の宮古上布」と並称され、越後上布とともに夏物着尺を代表する高級紺上布である。

#### ③業界の現状

戦後の社会的基盤の著しい変化は、原料糸である苧麻手績糸や上布の製造に大きな影響を与え、規模、生産量ともに戦前の数%程度でしかない。かかる状況を改善すべく、昭和33年度には宮古織物事業協同組合が設立され、昭和50年度には伝統的工芸品として通商産業大臣の指定を受け、認定された振興計画に基づいて振興事業が実施されている。昭和52年度には、業界振興の中核機関として「宮古伝統工芸品研究センター」が完成した。

生産額は昭和50年頃2億円に達した後、除々に落ち込み、平成10年には1千800万円まで落ち込んだが、平成17年には、1億円余りまで回復してきている。1人当たりの年間生産額は130万円前後となっている。従事者数は70人程度である。

#### ④課題と対策

##### 【苧麻糸の確保】

績み手の高齢化により、原材料の苧麻糸が不足している。需要があっても生産することができない。地味な作業であることや十分な対価が得られていないことからなり手が少ない。

近年「宮古苧麻績み保存会」の活動が乗りつつあり、これが機転となって、手績糸の増産することが期待されるものの、今しばらくは糸不足状況が続くと思われる。

##### 【組織体制の強化】

共同販売事業の取組がされてなく、商品取引は生産者レベルで行われているため、問屋との関係が十分ではない。共同販売事業に取り組みことや販路開拓のための支

援事業も活用し生活者ニーズの把握や問屋の意向を把握する必要がある。

## (2) かつお節

### ①沿革

宮古のかつお節製造は明治 39 年（1906 年）池間島で始まり、続いて明治 42 年伊良部島の佐良浜でも行われるようになった。最盛期の 1960 年代には池間、佐良浜合わせて 16 カ所のかつお節工場が操業しており、1968 年にはかつお節生産量 358 トン、生産額は 639 百万であった（かつお漁船 13 隻、かつお漁獲量 1,855 トン）。現在は伊良部島佐良浜に 3 カ所の加工場が操業している。

### ②製造法

かつお節の製造方法は、魚体から頭や内臓などを取り除き三枚におろし、煮釜で茹でる。これを一次燻乾したものが「なまり節」となる。「なまり節」をさらに煙で焙乾したものが「荒節」となり、「花がつお」の原料となる。

「荒節」を削って整形したあと、木箱に入れて青カビを発生させ、4 番カビまでつけて、さらに乾燥させたかつお節が「本枯節」となり、最高級品のかつお節となる。

宮古におけるかつお加工は、昭和 50 年代までは「本枯節」主流であったが、その後は、花かつおの原料として「荒節」、スーパーや観光お土産品向けの「ナマリ節」「味付ナマリ」加工へとシフトしている。

### ③業界の現状

最盛期には 16 ヶ所あったかつお節工場は、平成 21 年現在伊良部島佐良浜の 3 カ所のみとなっており、主な要因としてかつお節価格の低迷、漁業者の高齢化や後継者不足等による材料の調達難のため工場の閉鎖等が上げられる。

ここ 10 年のかつお節生産量について、平成 10 年は 136 トンであったが、平成 20 年の生産量は 17 トンであり、減少傾向にある。

### ④課題と対策

かつお漁獲量の減少にともない、かつお節生産量も減少した。この現状を打開するには、浮魚礁(パヤオ)等の漁場を利用した原材料の安定供給に加え、後継者の育成を続けることで、宮古のかつお節加工業が再び活性化するよう努力することが大切である。

## (3) 泡盛

### ①現状

宮古の泡盛は沖縄県の特産品「琉球泡盛」として、品質向上や消費者ニーズを捉えた商品開発等の取り組みが全国からも高い評価を受け、全国的にも誇れる名酒に成

長しており、近年、県外にも泡盛同好会が発足するなど、県内・県外においても着実に浸透している。

しかしながら、近年の泡盛出荷量は、全国的な焼酎ブームの落ち着きなどもあって平成2004年をピークに年々減少傾向に転じている。

## ②特性

宮古島には多良川酒造、宮の華、沖乃光酒造、菊之露酒造、渡久山酒造、千代泉酒造、池間酒造などの酒造所があり、それぞれに独自の味わいが魅力となっている。一般に宮古の泡盛は口当たりが良く、飲みやすいものが多いのが特徴となっている。

## ③課題と対策

泡盛出荷量は、全国的な焼酎ブームの落ち着きなどで減少傾向が続くと思われる。地域特性を生かした「琉球泡盛」のさらなる品質の向上や古酒の安定供給並びに流通の促進について、業界と関係機関の取り組み支援が必要である。

図表 3-3 地場産業生産高の推移

項目 年度	宮古上布 (反)	かつお節 (t)	泡盛 (KL)
S50	532	153	1,179
55	312	122	2,056
60	370	135	2,815
H2	213	105	2,717
7	41	56	3,631
12	26	43	4,159
13	12	42	4,182
14	13	67	4,081
15	11	14	4,320
16	20	14	4,373
17	21	15	4,344
18	27	7	4,069
19	25	20	3,836
20	27	17	3,659

資料：宮古織物事業協同組合、農林水産整備課、宮古島税務署

図表 3-4 宮古上布に関する事業所数・従事者数・生産額の推移

単位：所、人、千円

区 分	S50年度	S60年度	H元年度	H17年度	H18年度	H19年度
事業所数	150	88	85	18	16	14
従業者数	501	108	96	73	68	58
生産額	201,000	102,000	59,000	101,584	94,900	70,512
1人当たりの生産額	401	944	615	1,392	1,396	1,216

資料：商工振興課「工芸産業振興施策の概要（平成21年度）」

## 第2節 建設業

平成18年10月1日実施の平成18年事業所・企業統計調査によると宮古圏域の建設事業者数は、342事業所であり、県全体4,877事業所の約7%を占めている。

また、平成21年12月31日現在において、圏域に主たる営業所をもつ建設業許可業者数は、320業者となっている。（複数登録含む）

図表 3-5 県許可業種別建設業者数

平成21年12月31日現在

項目 市町村		建設業者 総数	県許可業者数					
			土木業	建築業	電気 工事業	配水管 工事業	タイル	塗装業
宮古島市	平良	209	175	113	38	76	9	36
	城辺	30	26	21	2	7	0	4
	下地	11	10	9	2	5	1	0
	上野	13	13	10	1	5	2	5
	伊良部	48	48	33	13	27	6	14
多良間村		9	8	5	3	3	0	3
合計		320	280	191	59	123	18	62

\*業者については、複数登録であるため総数とは一致しない。

資料：宮古土木事務所

図表 3-6 市町村別建設業者数

区分	総数		個人		法人	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
県計	4,877	43,980	1,610	7,239	3,267	36,741
圏域計	342	2,376	119	424	223	1,952
宮古島市	331	2,301	115	409	216	1,892
多良間村	11	75	4	15	7	60

平成18年10月1日実施

資料：統計課「平成18年事業所・企業統計調査」

図表 3-7 公共工事請負金額

単位：百万円、%

区分	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度					
	伸び率	構成比	伸び率	構成比	伸び率	構成比	伸び率	構成比				
県計	273,786	△ 0.4	100.0	262,767	△ 4.0	100.0	247,924	△ 5.6	100.0	268,173	8.2	100.0
宮古圏域	14,606	△ 13.6	5.30	16,670	14.1	6.3	15,983	△ 4.1	6.4	16,941	6.0	6.3

資料：沖縄振興開発金融公庫「沖縄経済ハンドブック2009年度版」

図表 3-8 建築確認件数状況

単位：件

区分	H15	H16	H17	H18	H19	H20
県計	4,126	3,273	3,127	4,512	2,920	1,472
宮古圏域	300	309	298	321	218	174

\*建築物のみ、指定確認検査機関の件数は含まず。

資料：宮古土木事務所

### 第3節 商業

平成19年6月1日現在で実施した商業統計調査によると、宮古圏域の卸売業及び小売業の事業所数は、862事業所となっており、前回調査（平成16年）と比較して、166事業所減（△19.3%）となっている。また、従業者数は3,418人で382人減（△11.2%）、年間商品販売額は650億6,735万円で2億1,150万円増（0.4%）となっている。

図表 3-9 市町村別事業所数・従業員数・年間商品販売額

	事業所数 (店)			従業者数 (人)			年間商品販売額 (万円)		
	卸売業	小売業		卸売業	小売業		卸売業	小売業	
県計	17,926	2,956	14,970	107,623	27,570	80,053	260,525,183	149,740,858	110,784,325
宮古圏域	862	108	754	3,418	519	2,899	6,506,735	1,985,822	4,520,913
宮古島市	844	107	737	3,375	518	2,857	6,458,267	1,985,762	4,472,505
多良間村	18	1	17	43	1	42	48,468	X	48,408

平成19年6月1日現在  
\*「X」は、秘匿した数値。

資料：統計課「平成19年商業統計調査」

図表 3-10 商店数・従業員数・年間販売額（卸売業）

区分	商店数							全従業員数 (人)	年間販売額 (万円)
	各種商品	繊維・衣服等	飲食料品	金属材料等	建築材料・鉱物	機械器具	その他		
県計	5	134	940	586	629	662	2,956	27,570	149,740,858
宮古島市		2	45	24	17	19	107	518	1,985,762
多良間村			1				1	1	X

平成19年6月1日現在  
\*「X」は、秘匿した数値。

資料：統計課「平成19年商業統計調査」

図表 3-11 事業所数・従業員数・年間販売額（小売業）

区分	商店数							全従業員数 (人)	年間販売額 (百万円)
	各種商品	身の回り品	織物・衣服・	飲食料品	自動車・	家具・じゅう器	その他		
県計	41	2,061	5,767	939	1,221	4,941	14,970	80,053	110,784,325
宮古島市	5	99	343	43	73	174	737	2,857	4,472,505
多良間村			13	1	1	2	17	42	48,408

平成19年6月1日現在

資料：統計課「平成19年商業統計調査」